

## おくれた人

ああして毎日

彼女は事務所で働いている

別に気ばりもせず改まりもせず

さらさらと毎日

経理事務を片づけている

紅葉の頃には三十にもなろうという彼女は

それでいて 目をみはるほど若くみずみずしい

僕なぞ すっかりそれがうれしい

僕なぞ すっかりそれがとおとい

ところが きみは

彼女はおくれた人だとい

あたり前のふつうの人だとい

大事な話はできぬとい

組合運動の話はできぬとい

まあ ただの事務員さ という

ばかな

彼女は あれで結構

きみが考えている以上に みっしり

仕事をしている

つつましく ありふれて

精一杯に生きている

このもったいない程の結構さについて

きみはもつと思ひ知れ

すすんだ意識とやらをふり回し

ふつうの人をおどし 傷つけ

表だつてはともかくも

陰では少しもあてにされていないことに

気づきもしない「大衆の指導者」こそ

きみ 僕らの言葉で おくれた人というのだ

それ程気ばりもせず

さらさらと しかし確実に働いている人の

その努力の本当の値うちを

きみはもつと人間の尺度で測れ

コチコチにでき上った

意識とやらの物差しもってきて

はい三センチ はい五センチ まだまだ式の

そんなたわけたやり方で

人間を測る馬鹿らしさを止めよ

きみ

考えてもみる

労働運動とは ありふれた しがない人たちの

精一杯生きる姿だ

すでにしてそのことをとおとへ

すでにしてそのことをよろこべ

すでにしてそのことをいとおしめ

(一九五四・五)